

卒業生が母校にかかる。

47年度総会

日時 5月21日(日)

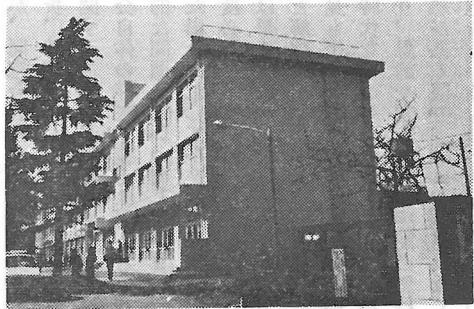
PM 1—5時

場所 母校 講堂

会費 100円
(飲み物券付)

同窓生の皆さんいかがおすごしでしょうか。今年もまた、五月第三日曜に開かれる同窓会定例総会の日も近づいてまいりました。

井草高の最大の特色である若々しさと自由な雰囲気を大いに生かした一日にしようと思います。



(新しくなった旧校舎)

役員改選、活動方針等の承認を行なう程度で終了し、あとは各室にご自由に入っていたとき、ゆっくり楽しんでいただけよう企画しています。

今年もまた校舎内に、級友同志や、クラブの先輩後輩が心ゆくまで話し合えるような、明るい雰囲気の喫茶室と、ムード音楽を聞きながらグラスをかたむけたり、静かにダンスをしたりして井草時代の甘いムードにひたれるようなワイン

ームを開設いたします。更にまた天気が良ければ、新校舎の屋上を皆様に解放して屋上ビアガーデンの出現も図っております。

日曜日の午後のひととを楽しく過すため、年一回の井草高校定例同窓会に皆様級友をお誘い合って、多数ご参加下さるよう、大いに期待しております。

尚、同窓会当日、母校において、クラス会等の会合を開きたいサークルがありましたならば、早目に井草会までご連絡下されば、ご便宜をはかる予定であります。(総会委員長 新田)

井草高校の近況



校長 飛岡 正治

(一) 人事 昭和四十六年四月教頭増田信先生は都立富士高教頭に栄進され、都立紅葉川教諭千野政長先生が教頭として新任された。

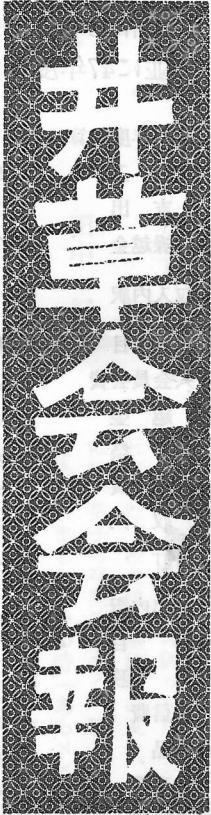
(二) 施設 昭和四十六年五月体育館脇の南側に25m、6コースのプールが新設され体育の時間に水泳指導が加わり、水泳同好会もできた。昭和四十七年二月に校門脇の木造校舎が鉄筋に改築され、1階に2教室分の昇降口と保健室、2階に普通教室3、3階に音楽室、同準備室と普通教室1等ができる。このため普通教室は全部鉄筋校舎でまかなえることになり施設面で目面を一新しつつある。体育館

昭和47年度も大いに期待しているが、この原稿を書いている段階では資料不足で発表できない。

(三) からまつ山荘 井草のPTAは五年前に長野県の湯の丸高原にからまつ山荘を建てた。都立校の校外施設としては第一級の施設である。卒業生やその父母は一泊千百円で泊っていただいているので宿泊ご希望の向きは、本校事務室にご連絡下さい。

(四) 同窓会新会員 去る3月11日第24回卒業式を挙行し、428名に卒業証書を授与した。同窓会の新会員としてよろしく願います。

総会のご出席をお待ちしています



等は今後の問題であるが、西南のグランドの改修は来る四月より半年間の予定で実施される見込である。

(三) 進学状況

昭和四十六年度の進学状況は近年になく好調で、井草高の躍進が諸方面で話題になり注目された。東大4、東工大1、一橋2、東京教育大4、お茶の水3、京都大3など国立一期校に25名合格。東京外語大2、東京学芸大8名合格。東京農工大5、埼玉大5など国立二期校に25名合格。都立大5など公立大に合計11名合格。早大37、慶大31、中大21、日大19、青山学院18、明大17、上智12、立教12、東京女子大5、日本女子大3、津田塾2など私大合計295名合格。短大合格60名。

井草高同窓会の悩み



会長

築山 俊一

新緑の風がおる五月、新たに二十四回卒四百五十名の皆さんを迎えて、定期同窓会を開催する日ひ近づいてまいりました。早いもので我が井草高も創立以来三十周年を迎え、同窓生の数も八千名を越えました。このままでいきますと三年後には一万名に達する所帯になってしまいます。母校井草も鉄筋四階建の新校舎が出来上がり創立当時の木造校舎は全て姿を消してしまいました。また校庭にはブールも出来、一日と目ざましく発展していく事は我々窓生としても真に喜ばしい次第です。

一方、同窓会も井草の発展と共に大きく飛躍していくことを志させてはいますが現状ははなはだかんばりありません。会員数だけは一年一年急速に増していま

すが、同窓会活動の方は停滞気味です。時折、幹事会においてもいろいろな現状を打開すべき議論がなされますが、結局同窓会 자체の存在意義とは何かといった本質的な問題へといつてしまします。そ

した場合はたして卒業生が同窓会をどの程度必要としているのか、また我々の行動は単に自己満足ではないか、いつそのこと解体してしまってはどうか、などの意見も出されます。しかし、井草高で青春時代をすごしたという共通の場がある限り、恩師や友人達への感謝の気持ちや郷愁がある限り、確かに強制されなくとも同窓会というものは永遠に続いくものではないでしょうか。我々はそう自分にいいきかせながら地道に活動していま

ますと、主な課題は(1)一万人近い組織を動かしていく運動資金の問題、(2)運営にあたる幹事の絶対数不足の問題、などがあげられます。

さて実際にどんな悩みがあるかといいますと、幹事会の仕事をしていて(1)の実際に仕事にたずさわる幹事数の不足は深刻ですし、同窓会停滯の最も大きな原因でもあります。私自身、井草を卒業後十一年間同窓会の仕事をしてきましたが、会員の増加にもかかわらず幹事会の人数は常に二十人前後で変化がありません。特にこの二、三年は新入幹事の出席が悪く多少マジックリズムではない

かと反省しています。八人の役員すら欠員が出る始末で、同窓会という組織を維持していく事の難しさを感じます。幸い今回の名簿作成には高校一、二回頃の大先輩達が四、五人非常に熱心に動いて下さったのでなんとか皆さんのお手元にとどけられそうです。今の状態ではあまり手広く活動するわけにはいきませんので当分は総会、会報、名簿整理の三つの仕事を中心に地道な活動を続けていきます。井草同窓生の皆さん♪ 井草高はもともと自由で明るく活動的な人間の集まりです。八千名の集団をねかしておく事はもったいない話です。もっと積極的に同窓会の事に关心を持つて下さい。我々に大いに注文をつけて下さい。そして皆んなでよりよい同窓会に育てていこうではありませんか。

昭和46・47年度 井草会役員

昭和46・47年度 井草会役員

	会長	副会長	会計	庶務
会計監査	築山 俊一(十二回)	新井 雅晴(十三回)	小野田照子(十四回)	
中村 清子(十七回)	宍戸 文男(十九回)	新田 秀夫(二十一回)	滝川 淳子(七回)	
欠員	西田 幸隆(二十一回)	山口 淳子(七回)	西田 実(十七回)	

昭和46年度 会計報告 並に47年度予算案

昭和46年度決算

収入	591,348
支出	215,712
繰越金	375,636

○収入内訳

種目	46年度(決)	47年度(予)
新入会員会費	436,000	429,000
繰越金	136,130	375,636
体育祭費	9,095	10,000
会員費	3,000	120,000
雑収入	7,123	5,000
計	591,348	939,636

○支出内訳

種目	46年度(決)	47年度(予)
総務		
通信費	15,465	80,000
備品	12,000	
事務費	1,408	2,000
交通費	7,800	3,000
幹事会		
会議費	36,105	10,000
通信費	3,872	2,500
交通費	7,443	5,000
総会		
準備費	29,774	30,000
発送費	70,460	160,000
名簿委員会	31,385	580,000
会報委員会		65,000
予備費		2,136
積立金	375,636	
計	591,348	939,636

けやきと桜の井草

田中 紀子

(高女四回生)

昭和二十七年に結婚して、東京を離れました。東京で生まれて育った私にとっては、一日も早く東京へ転勤にならないかとそればかり願って暮して居りました。同窓会に行きたくても、その為に日程を合わせて上京することなどむつかしく同じ社宅の方が「同窓会に行って来るわね」と言うのを羨望のまなざしで見送っていたのです。

然し幸なことに、子どもが成長してゆくにつれ、又住まいが阪神間の高台といふ好条件もあって、住めば都の言葉通りすっかり関西の土地になじんでまいりました。その矢先、昭和四十三年春に、主人の転勤で東京へ戻ってまいりました。両親の健在ならちに戻り度いと思つて居りましたのに、それはかなわず、淋しい思いがしましたが、それでもやっと東京に住めると思うと嬉しうございました。早速青山先生にお聞きして、五月の井草同窓会伺いました。

もとの井草は武蔵野の畠の延長のような場所にあり、どこからでも入れましたのに、今は高いコンクリートの塀がいかめしく構え、古い校歌にあつた堤の桜はいつの間にか川ごと消えて、校庭の桜は見ればもう昔の細細とした面影は全く無く、がっしりした太い幹に成長して居りました。長い間懐しく思つて居りました。

無語の語りかけ

加納 輝子

第二十回卒業生

た井草とはまるで様子が違つて居り、此の時はつきりと歳月の隔りを感じさせられました。校舎は勿論鉄筋に変り、受付には、男子の卒業生が多く一瞬入るのをためらいました。その時「あら××さんじゃない」と私の旧姓を呼ぶ声にびっくり、古屋先生でした。そのほか私がお習いした先生が五人程いらして、みんな私名前を覚えて居てくださった時の感激学窓を離れて以来二十年も経っているのにこんな嬉しかったことはありません。

また転勤でどこにゆくか判りません。長く東京を離れて居た私など、懐しさだけで井草へ集まって居るような恰好ですが、同窓会のために一生懸命仕事して居る人は、若い層の人達が殆んどです。井草も三十周年を迎えた。いわゆる先輩と呼ばれる方々は夫々お仕事も多くお忙しいでしょうが、その豊かな体験と英知を少しでも井草同窓会の方へまわして頂く事お願いできぬでしょうか。

草を卒業してからも、井草に在学できていた時も、数えきれない程多くの方や、多くの事柄に囲まれているように思います。そして、私は知る事もできず、知らぬ事もせず、知るべすら考えずにたまりました。その時「あら××さんではない」と私の旧姓を呼ぶ声にびっくり、古屋先生でした。そのほか私がお習いした先生が五人程いらして、みんな私名前を覚えて居てくださった時の感激学窓を離れて以来二十年も経っているのにこんな嬉しかったことはありません。

また転勤でどこにゆくか判りません。長く東京を離れて居た私など、懐しさだけで井草へ集まって居るような恰好ですが、同窓会のために一生懸命仕事して居る人は、若い層の人達が殆んどです。井草も三十周年を迎えた。いわゆる先輩と呼ばれる方々は夫々お仕事も多くお忙しいでしょうが、その豊かな体験と英知を少しでも井草同窓会の方へまわして頂く事お願いできぬでしょうか。

言葉とか、音として私の耳に語られる以上に、私などには耳を傾ける事すらできない程の無数の無語の語りかけが成されている様に思うのです。ですから、私にとって井草での三年間の日々は、過去として固定していると言うよりは、現在も生き続け、私が歩ゆもうとしている道と相互作用を成している様に思うのです。これは何も井草での日々だけには限らない事ですが、その日々の表面的な良し悪しだけでは判断できない何かがあります。それを耳にする事ができるか否かのようす。それはとてもありふれていて、極く当然の事だと思われるのですが。私が、井草を卒業してから早くも四年が経ちます。その間、いろいろな事があった様にも感じられますし、また、自分自身何一つ変わらず、かえって後退している様にも感じられます。私は、今も、そして井

からまつ山荘 だより

新田秀夫 (21回)



から歩み出そうと努力しながら生きたいと思うのです。そして、そうした無語の語りかけを大切にし、少しでも耳にすることができるようになります。

私はからまつ山荘が出来て、第一回のスキー教室に行きました。それから六年湯の丸高原もすいぶん様子が変っていると思ったのですが、官有地ということもあって、民間の業者も増えず、想像していたよりも昔の身影が残っているのではなくなりました。尤もゲレンデが山荘の裏手に新しくできて、以前よりも一層楽しめました。

今年は各地で雪不足だというのに、こは例年になく雪が豊富で、又毎日晴天に恵まれさらにスキーヤーが少ないのですが、それを耳にする事ができるか否かのようす。その間、いろいろな事があった様にも感じられますし、また、自分自身何一つ変わらず、かえって後退している様にも感じられます。私は、今も、そして井



井草の 今と昔

今回の十三号会報では、「今と昔」というテーマで二ページに渡って、特集してみました。

昔の井草では、井草の生い立ちから初まって、学校の名前の由来、そのころの状勢、エピソード、学校の風物、歴史を二代校長杉山先生、青山先生方からお話を聞いていただいております。

今と昔では、今の井草生の学生気質ラブ活動等に対する今の井草生の考え方の一端をのぞかせてもらいます。

今年で井草を出て十六年目の僕でさえ今と昔との考え方のずれを感じられる部分もあるのですから、僕よりも早く井草を出た方、もう高校生の子供さんを持つ方、それそれで考え方受けとり方が違ひ面白いのではないか。うか。

又、僕よりも遅く出た方、もちろん僕らの時代の卒業生でも、昔の井草に出てくる様な、エピソード、歴史、由来等是非常に興味深い記事になつていて思いました。

こんな記事がきっかけとなつて、少しでも井草の事を思い出して頂き、現在はもうすつかり昔の校舎がなくなり、すべて真新しい鉄筋の三、四階建てになつた校舎を、校歌にある桜の木も残り少くなつてきた井草を尋ねて頂くのも、今度の総会は、なつかしい先生もいらつして

絶好のチャンスだと思います。
前置きが長くなりましたが。では……

井草誕生（その一）

東京には、ナンバースクールと称して第1から順次番号をつけた府立中学校及び高等女学校があつた。第18高等女学校（井草高校の前身）は現在の武藏丘高校の地に開校。そこには20中（大泉）21中（武藏丘）五商の四校がそれぞれの区画に居を構えていた。昭和18年2月2日現在地に移転。当時の土地買収価格は、道路側（東側）は坪13円、西側の奥の方は11円であった。最初、現在西武新宿線の車庫となつてある付近の土地を買収するつもりだったが、地主が手放さず、ついに当地に決定した。又、校舎建設は勝村組が請負い、軍でおさえていた良材を特に使用してくれたという。青山兵吉先生が書かれた墨書が「上棟 昭和17年7月25日」と、標示している。ところで井草の校歌には、つづじ、八重桜、いちょうの三つが歌い込まれている。これは「井草三木」と称してもよい指標植物である。これを移植し、育てるためには当時の全職員と全生徒の努力があつたのである。又、三木の多くは近隣からの寄贈によるものである。決して、この人たちの善意を忘れてはならない。

ああ井草 われら ここに
世界の前に われらあり
われらあり 井草高校

井草という校名（その二）

一年程、武藏ヶ丘にいた後、現在の校舎に移転することになつたのですが、当

時は太平洋戦争が始まつて、物資も労働力も極度に不足していました。そのため本校舎の建設は思う様に進まなかつたが

それでも校地だけは16年10月にすでに決定していた。ちょうど校地の決まつたその頃、府当局から当時の広瀬校長に学校の名称変更についての相談があつた。『第18高女は、そのうちに上石神井に本校舎を建築して移転する事になるのだから、石神井高女という名称にしたいが、学校ではどう思うか』というのである。これを聞いた杉山文雄教頭（第二代校長）が「校地は確かに上石神井に決められてゐるのだから、それも一案であろうが、女の学校にジイ学校もあるまい。それに学校に通う電車の下車駅が上井草であるから、むしろ井草高女とする方が、この新設校舎を訪ねてくる人々にもわかりやすく親切ではなかろうか」ということで、職員にも呼びかけ、学校内の全員の賛成をもつて、第18高女は17年1月から井草高女と呼ばれるようになつた。本校舎の第一期工事（とりこわした北側の木造校舎）ができ上つたのが18年1月で、そこへ移動したのが、2月2日～4日ですから、驚の宮の仮校舎時代、すでに草井から、驚の宮の仮校舎時代、すでに草井

た人もいたそうだ。練馬区上石神井に学校を新しくつくらうというのに、杉並区の地名をとつてその校名としたのですから、そう思われたのも無理のないことである。

井草の歴史（その三）

井草の歴史は、昭和16年に今と武藏丘（鷺の宮）に府立第18高等女学校として発足した時に始まる。当時は前途の四校が一つの敷地内にバラックを一棟ずつ構えての共同生活で18高女は一番南にあつた。着任された先生方もあまりちっぽけな校舎に目を白黒させたとか。当時は、職員も若い人が多く、この生まれたこの学校「井草」にかける熱意も並々ならぬものがあつたようだが、現在、当時からいらっしゃる先生は、美術の青山先生たる一人である。（何でも、青山先生は、高女一回の女生徒達に「ロクさん」の呼び名をもらって以来、今なお「ロクさん」で通っているそうだ。）

昭和16年の12月に戦争になつたわけだが、20年頃までは、それでもんびりと勉強らしい勉強をしていた。特に英語は、よその学校では廃止するという迎合的な措置がとられている中で、『英語はますます必要だ』とやつてた事をきいている。しかし、遂に19年の半ば過ぎから、驚の宮の仮校舎時代、すでに草井校舎ができ上つたのが18年1月で、そこへ移動したのが、2月2日～4日ですから、驚の宮の仮校舎時代、すでに草井

いこの頃の井草には、誠にのびのびとした活気にあふれた空気が満ちていたのである。立ちっぱなしで疲れ果ててしまい仕事を終えた時には、もう勉強する気力も失わせてしまう。(実際、授業はこの間、全く行なわれなかつた。)そんな生活と、空襲につぐ空襲。幸いにして井草生からは一人も犠牲者が出来なかつたそうだが。すぐそばの建物が爆撃をうけたところもあつたそうだ。又、この頃工場で先生方が大部がんばつたというような話を聞いている。『これだけ働かせて生徒にろくな物を食わせない。これだけ働いて、これしか食わせないのか!』といつて、つい分怒つたのだそうだ。その当時、このようなことをいうだけでもずい分大変なことだったのである。

今のが草学生氣質(その四)

三十年も歴史があると、高校生活といふのも時代と共にかなり移り変わりも激しいと思われる。現在、在学中の井草生が何を考え、どんな行動をしているか、その一面を『井草新報』から抜粋してみた。

●生徒会てもんはナ

生徒会は何のためにあるのか、生徒の自治、権利のためか。

話は去年の生徒会役員選挙の時と戻るが、あの時の立候補者数、皆の関心、それがそのまま今の井草生徒会の問題点を映し出していた、と言えるだろう。「立会説会はおもしろい。」などと言ひながら会長すら決まらなかつた選挙。立候

援演説やボスターの作成もかなり活発だった。中学校でこれだから、高校になつたら、どんなにすごいかな、と僕は期待していた。しかし、それは裏切られてしまつた。しかし、それは裏切られてしまつた。では、その遠足の意義は何だろう。中学校の時は、候補者が何人も出、各クラスを立合説会とは別に回つたり、応援演説やボスターの作成もかなり活発だった。中学校でこれだから、高校になつたら、どんなにすごいかな、と僕は期待していた。しかし、それは裏切られてしまつた。

今、生徒会でどんな事を話し合つたり実行したりしているのか知つてゐるかい。ただ選ぶだけであとは無感心な井草生、生徒会も気むすかしい事ばかり扱いつづく。生徒会は、何も残さないし、僕らも何も期待しない。皆の無感心・無感心……。

●井草祭でなあーに

第十四回井草祭は周知の如く『井草祭てなあに?』をテーマとして、その答えも不明瞭なままに終了したようだ。ある先生はそれを三無主義の顕現と言われたし、無理からぬところかもしれない。

だが、僕らは其の渾沌の中を収束されることなくごめく僕らのエネルギーに無感動ではおられなかつただろうし、それぞれに自問していくに相違ない。それは最早テーマを表現するのではなく、表現そのものがテーマたる事を余儀なくされた『今は眠れる鉱脈』の無限の力とされ、かつ『生きること』それ自体に内迫するような契機を、ぼくはここにはらまれた。

た。現在は都大会A級4位である。会員は、三年五人、二年六人、一年五人の計一六人と多人数である。去年は、一年が私一人だけで、この先どうなるものかと案じていたのが嘘のような話である。今年は一年の女子が二人入つた。このことは今までにないことであり、また、非常に喜ばしいことである。早く強くなつて行けないのだから。

●遠足とは

井草においては、遠足は楽しむものだと言ふ生徒は、遠足は楽しむものだと言ふ異性との接觸の場であるという。そしてほとんどの生徒は、その意義について、クラスの親睦を深めること、勉強の息抜きなどと考えているようである。だが、遠足に行かなければ、クラスはまとまらないのだろうか。その程度の意義のものなら遠足に行かなければ、まる一日つぶして遊ぶ必要もないのではないだろうか。

「ラグビーっておもしろい?」

「うん。グンバツ、タックルなんか見えてると、彼女にふられた事忘れちまうな」

「やつてみない」

「ケガをするのがなあ……。」

オレ達は、週五回、放課後のグランドの片隅に存在している。三年十六名、二年五名、一年九名、マネージャー八名、顧問は、数学の小池先生、体育の森脇先生である。目下、野郎募集中!



将棋同好会

二年前、先輩の活躍により、全国大会七位の栄光をかち得たこの頃から

同好会は、安定した強み

を發揮するようになつ

名簿作成状況報告

住所・勤務先の移動のときは幹事又は学校までご連絡下さい。

隆野豊子

(高校二回卒)



ラクビー同好会

全国大会で活躍してもらいたいと思う。

ある東京都練馬区のグランドでラグビー試合観戦中のひとりに聞いてみました。

「ラグビーっておもしろい?」
「うん。グンバツ、タックルなんか見えてると、彼女にふられた事忘れちまうな」
「やつてみない」
「ケガをするのがなあ……。」

オレ達は、週五回、放課後のグランドの片隅に存在している。三年十六名、二年五名、一年九名、マネージャー八名、顧問は、数学の小池先生、体育の森脇先生である。目下、野郎募集中!

ができて年に一度の質状の往来に懐しさが湧き細い流れを辿って出てみたら井草がそこにあつたのです。

このたび井草創立三十周年を経て六年ぶりに発行される名簿に、今まで背を向けてしまっていた井草会に埋合わせができればとお手伝いを買ってきました。

名簿は無いよりあつたほうがいい。あるのならより正確でありたいと希います。この一年間そしてこれから先の半年間井草会の基礎固めになればと名簿作成にうちこんできた経過を報告します。そしてこれから先の発行発売まで多少のご協力を寄せていただけたらどんなにか嬉しいことでしょう。

井草会の基礎固めになればと名簿作成にうちこんできた経過を報告します。そしてこれから先の発行発売まで多少のご協力を寄せていただけたらどんなにか嬉しいことでしょう。

井草会の基礎固めになればと名簿作成にうちこんできた経過を報告します。そしてこれから先の発行発売まで多少のご協力を寄せていただけたらどんなにか嬉しいことでしょう。

×

×

五月上旬 総会案内状を葉書で発送

五月十六日 同窓会総会で名簿作成予算可決

六月四日 総会通知の返送分の整理にかかる。発送数の約半分が戻る。

七月四日 名簿作成に関して幹事会開く整理方法・作成・費用・期日の大綱を練る各級単位に男女二名代表者を決め趣意書とその級の同窓会名簿のコピーを同封して七月上旬に依頼発送する。約三百名。

代表者は転居や住居表示変更で行方不明が多く幹事側で無作為に決めさせてもらった。(出席者六名)

七月三十一日 第一回名簿委員会

会費納入にご協力下さい。
昭和四十七年度

訂正名簿五十三級到着する(一六〇級中)提出級の原簿作成を始める。分担と形式をきめる。

未提出級と連絡のない級に催促状を出すこととする。(二四〇通)(出席十二名)

九月五日 方針再確認・売価検討
名簿整理に関しては発行前に追調査を行う。原簿作成の分担を再確認する。

本来なら各年度代表が責任者となるのが理想だが全く音信不通の年度があり困却。(出席十三名)

八月は委員会はなく個々に学級の名簿委員に依頼の電話に明けくれる。ご出産前の忙しい方、育児に忙しい方、地方に転勤されお盆に帰つたばかりの方またその留守のご家族の方々から連絡があり固い壁が少しづつ押し開かれる心地で感謝でした。

十月十七日 印刷会社に見積依頼。(出席席七名)

十一月十四日 印刷会社から見積到着し採算再検討(出席十四名)

十二月十二日 未提出級の対策として各学年担当者が直接代表者と折衝する。そして何とかして連絡をつける。

原簿清書を委員長に提出。(出席八名)

一月二十三日 前月と同じ件。(出席七名)

三月十二日 名簿整理の進展状態をチェック連絡のとれない二二学級について委員が分担し強力に促す。白紙学級のないように。名簿の価格、売捌方法を決定。

今後の予定を具体的にたてる。
三月 高校七回までの原簿をグラ刷りし追調査用に準備する。

四月 総会準備、会報発行し名簿申込用紙を折り込む。

五月 総会。高校八回以降のグラ刷り完了し、追調査依頼し完了する。

六月 名簿完成、印刷。

七月 発送

(出席九名)

次回委員会は四月二十三日

×

終わりにこの一年、厚かましく強要した名簿委員でしたのにご了解いたゞいてご多忙の中から快く応えてくださいました学級名簿委員の方々に厚く御礼を申し上げます。しかし、名簿完成には、これから最後の仕上げの段階ですので、あともう一步追調査をよろしくお願ひいたします。

新名簿購入のお願い

前稿の様に、高女、高校の初期に卒業された方々を中心、卒業したばかりの幹事さん達が、去年度初めからの、昼夜をわかつの活動によって、今年の六月中には、完成の運びとなりました。

とにかく、少数の者が中心になって、日本中、いや世界中の井草同窓生の消息を調べるようなつもりで動き回りました。また多くの幹事さんや幹事以外の皆さまの御協力でかなりの名簿が出来ると思っています。

この対策を考える為に、今回この会報に希望調査用葉書を同封致しますので、忙しい中、まことにおそれいりますが円切手を貼つた上、全員の方が御返送頂けるようお願いします。

勝手では御座居ますが、万一御返送又は連絡がこちらにない場合は、同窓会への参加意志が薄いものと判断させて頂きります。

電話の傍に置いて、思い出した時には、親しい人と楽しい語らいをなさってはいかがですか。

価格は五〇〇円です。また会費六〇〇円もお忘れのないようにお願いします。

井草会報に会員の動向ニュースをお知らせ下さい。

、

決定。

どうか、一冊お求めになり、書冊に、

發行	井草高校	井草会
練馬区上石神井一ノ四〇		
発行責任者	宍戸文男	
印刷所	かどや印刷	